政 第 4 0 9 号

平成 18 年 10 月 27 日

資源エネルギー庁

長官 望 月 晴 文 様

松江市長 松 浦 正 敬

島根原子力発電所 2 号機のウラン・プルトニウム混合酸化物燃料の使用
に係る国への原子炉設置変更許可申請の申請了解について

平成 17 年 9 月 12 日付けで中国電力株式会社から松江市に対し、「島根原子力発電所周辺地域住民の安全確保等に関する協定」第 6 条の規定に基づき申し入れのあった「ウラン・プルトニウム混合酸化物燃料の使用について」は、国への原子炉設置変更許可申請を行うことについては了解することとし、別添のとおり中国電力株式会社に回答しましたので、お知らせします。

なお、第 6 条の規定に基づく事前了解については、国の安全審査の結果を踏まえ、改めて審議し、最終判断をすることと致しますので、申し添えます。

さて、松江市では、上記の申し入れを受け、これまで松江市原子力発電所環境安全対策協議会、各地区での住民説明会、シンポジウムなどを開催し、市民からのプルサーマルに係る質問意見を取りまとめてまいりました。

つきましては、別添の質問事項について、安全審査結果に併せて文書でご回答いただき、国主催による市民説明会を開催していただきますようお願い申し上げます

質 問 事 項

1、核燃料サイクルの確立について

原子力政策大綱では、高速増殖炉について「2050年頃からの商業ベースでの導入に至るまでの段階的な研究開発計画について2015年頃から国としての検討を行う」とし、「中間貯蔵された使用済み燃料及び使用済み MOX 燃料の処理の方策」は、「2010年頃から検討を開始する。」とされている。

これらを踏まえて、「今後の核燃料サイクル実用化のシナリオ」が示されており、2006年度から2015年を目途に、「高速増殖炉サイクルの実用化戦略調査研究」フェーズ3に着手されたところであるが、明確な核燃料サイクル実用化のプロセスが明らかにされていないので、FBRサイクルを含む核燃料サイクルについて、現在の計画を具体的にわかりやすくご説明いただきたい。

2、使用済み MOX 燃料の処理について

六ヶ所再処理工場で再処理されない使用済みウラン燃料と使用済み MOX 燃料については、「今後の核燃料サイクル実用化のシナリオ」において、「2045年頃に第二再処理工場の操業を開始する」こととされているが、確実に実施される具体的な計画をお示しいただきたい。

また、仮に第二再処理工場の操業に遅れが生じるような場合には、使用済みウラン燃料と使用済み MOX 燃料はどのように処理されるのか、お示しいただきたい。

3、プルトニウムの利用計画と核不拡散について

六ヶ所再処理工場で回収されるプルトニウムは、年間8トンとなり、その内、核分裂性プルトニウムは約5トン程度と推計される。16基から18基の原子力発電所でプルサーマルを実施することにより年間5~6トン消費する計画であるが、計画どおり進まない場合はプルトニウムを保有し続けることにならないか、核不拡散の問題を含めご説明いただきたい。

4、回収ウランの利用計画について

六ヶ所再処理工場で回収される回収ウランは、年間760トンと推計される。これまでは国内でウラン燃料に再利用されていたが、回収ウランの当面の貯蔵管理も含め、今後の利用計画についてご説明いただきたい。

5、放射性廃棄物の処理について

高レベル放射性廃棄物については、「特定放射性廃棄物の最終処分に関する計画」に基づき、最終処分場の選定が進められているところであるが、今後の取り組みについてご説明いただきたい。

高レベル放射性廃棄物の低減を図るために、マイナーアクチノイドを資源として有効に活用する処理方針について今後の計画をお示しいただきたい。

再処理により低レベル放射性廃棄物が、新たに生じることについての考え方を説明いただきたい。

6、各国の原子力政策について

ドイツでは、原子力発電所の運転期間を運転開始から32年とし、2003

年に初めて1基を閉鎖、ベルギーでは、運転期間を40年とし段階的に原子力発電所を閉鎖していくこととしている。

プルサーマルを実施している各国の原子力政策について、詳しくご説明いただきたい。